

はじめに

「SASEBO時旅」とは、2011年4月より佐世保観光コンベンション協会から提供されている旅行プログラムの名称で、そのコース設定は約30コース（2013年春・夏 現在）におよんでおり、今では佐世保市の着地型観光（地域自らが創意工夫した旅行）を代表する滞在コンテンツの1つとなっている。そこで、今回はこの「SASEBO時旅」（以下、「時旅」）についてレポートする。

I. 「時旅」のはじまり

1. 「時旅」の誕生

2004年度から06年度までの3年間、環境省からエコツーリズム推進モデル事業の『多くの来訪者が訪れる観光地での取組み（マストツーリズムのエコ化）事業』推進地区の指定を受けた佐世保市では、当事業を推進する佐世保地区エコツーリズム推進協議会において「させぼエコツーリズム基本計画」を策定し、地元の自然をテーマとしたエコツーリズムの方向性を定めた。そうして事業終了後は、エコツーリズムの基本方針から一貫して地域の特性「佐世保らしさ」を体感する着地型観光を展開した。

そのようななか、「3年間におよんだ当該事業のテーマ『地元の自然や文化、歴史、産業』にみられる『地域の特性』を資源としたツーリズムの取組み」から、既に実施されていた市中心部における米海軍基地訪問やナイトツアーなどのまち歩き、郊外における地域の特色を生かした体験ツアーといった、個別のメニューをひとつにまとめ、新たな着地型観光を展開することになり、これが「時旅」の誕生につながった。

2. ネーミングについて

環境省の事業終了後、エコツーリズムや体験型観光に取り組んできたスタッフにツーリズムの専門家等をアドバイザーに迎えて、新たな観光商品についての話し合いを重ねるなかで浮かび上がってきたキーワードが「とき」であった。

佐世保市では、1日の時間軸でも様々な魅力があり、昼間の楽しみ（観光）が幕を下ろすと、夜の楽しみが幕を開けて外国人バーなど佐世保ならではの夜を楽しむことができる。また、日常

の暮らしの風景のなかに港の歴史（軍港）を感じることができ、市民がおすすめするとしておきの時間を共に過ごす「とき」を楽しむなど、「とき」をキーワードとし、「時」「季」「史」など様々な漢字を当てはめていくなか、最終的にはそのまま素直に「時旅」となった。

また、この「時旅」という言葉に加えて“佐世保”という表現を“SASEBO”とアルファベット表記とし、米海軍基地があるアメリカの雰囲気が漂う街・佐世保らしさの表現と、「時旅」と並べた文字全体のカタチが醸し出す雰囲気から、関係者全員の一致により新しい佐世保の旅を『SASEBO時旅』と決定した。

3. プログラムの作成と公式ガイドブックの制作

「時旅」という旅行プログラムの開発を行ったのは、佐世保市が2006年から進めているガイド育成研修を履修した市民ガイドによる「させぼガイドネットワーク（SGN）」と、「時旅」の対象となる地域在住の人たちである。

SGNには「自分が大好きな佐世保の魅力を伝えたい」との思いからガイド活動をしている人が多く、自身が「時旅」対象の地域出身者というわけではないが、「伝えたい佐世保の魅力」を伝えるための「時旅」を企画するうえで、例えばここでは地域の人のこのような話を聞いてもらう、という行程を組むにあたり、地域在住の人たちもプログラム作成に加わることとなった。

こうして、市民ガイドや地域に住む人たちが伝えたい佐世保の魅力を「旅」のカタチにした「時旅」のプログラムが完成し、それをもとにした専用公式ガイドブック『SASEBO時旅・公式ガイドブックVol.1 2011春・夏号』を2011年3月に発表、佐世保の新観光プログラム「SASEBO時旅」がスタートした。

公式ガイドブックとともに、インターネットサイト『SASEBO時旅』やガイドのブログ『時旅ガイドの手のひらブログ』、そして現在ではFacebook『SASEBO時旅 Facebook』と、3つのデジタルコンテンツも併せて展開している。



ガイドブック最新号：
「SASEBO時旅・公式ガイドブックvol.6 2013秋・冬号」

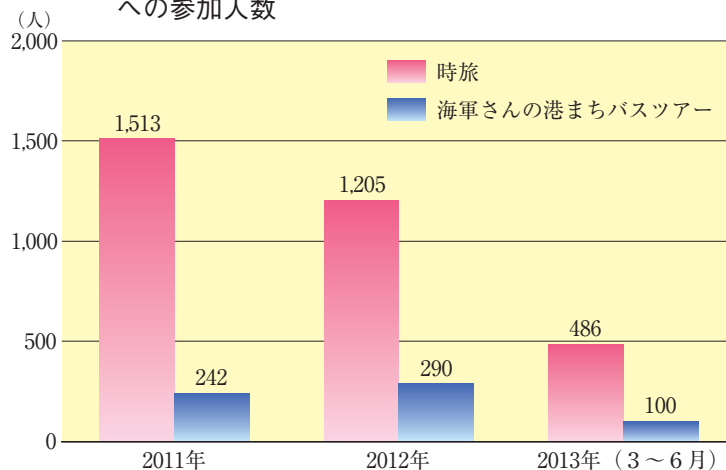
Ⅱ.「時旅」の内容

1. 代表的な「時旅」のコース

「時旅」では、年2回のペースで公式ガイドブックが発刊され、その際、新たなコースが加わったりするなど、最も多い時には32コースを数えた。なかでも一番人気が、1人あたりの参加費用8,500円の「海軍さんの港まちバスツアー」である。

このコースは、普段立ち入りが制限されている米海軍と海上自衛隊の両基地を訪ね、基地内に残る旧海軍の歴史に触れ、昼食は基地内のレストランでとるという基地の街SASEBOを体感できるプログラムである。本コースの募集定員は1回25名、年間300人であるが、今期2013年3～6月期に行われた4回のツアー参加人数は計100人と、定員ちょうどで推移しており、昨年2012年3月～2013年2月期の年間実績290人を超えるペースとなっている（図表1）。このコースは、その希少性・話題性から、参加者の発地も全国におよんでおり、本コースを目的とした人が他のコースにも興味をもつようになるという、「時旅」の訴求にプラス要素をもたらしている。

図表1 「時旅」全体と「海軍さんの港まちバスツアー」への参加人数



※2011年は同年4月～2012年2月期、2012年は同年3月～2013年2月期
 ※佐世保観光コンベンション協会の資料をもとに当研究所にて作成



米海軍基地内のガイド



米海軍基地内レストランのようす

※写真提供：佐世保観光コンベンション協会

その他では、松浦鉄道の車両を貸切って平戸街道の宿場町である江迎町を訪ねる「寿福寺と江迎本陣 平戸藩ゆかりの日本酒とお料理」コースが挙げられる。定員35名、1人あたりの参加費用6,200円で年2回催行しており、毎回29～35名が参加している。



松浦鉄道の車両を貸切って出発！



江迎本陣内でのガイドのようす

※写真提供：佐世保観光コンベンション協会

2. 「時旅」のガイド

「時旅」の催行には、市民ガイドが約20人、地域住民約100人が関わっている。その性別は男女約半々であり、年齢は30代後半から60代後半までと幅広い。

ガイドの収入は、定員での催行となった場合には2万円程度が見込めるものもあるが、各コースの作成段階で発生する諸費用（調査研究や現地下見を行う場合の費用など）は自身が全額負担していることからガイドの目的は「報酬」ではない。「佐世保の良さを広めたい」などという思いで自身も楽しみながら来訪者を迎えているガイドにとって、「時旅」事業における採算は二次であろう。

3. 「時旅」の参加者について

「時旅」では、年2回のガイドブック更新時に設定数の増減や内容の見直しが行われていることから、年間を通して同じ条件で催行されるとは限らず、また天候に左右されやすいコースもあり、催行できない場合もある*。このため、年間参加者数の単純比較はできないが、先述【図表1】の通り、2011年の1,513人に対し、2012年は1,205人と落ち込んだものの、今年2013年は4カ月で既に486人が参加しており、このまま推移すると年間で1,400人は超える見通し。

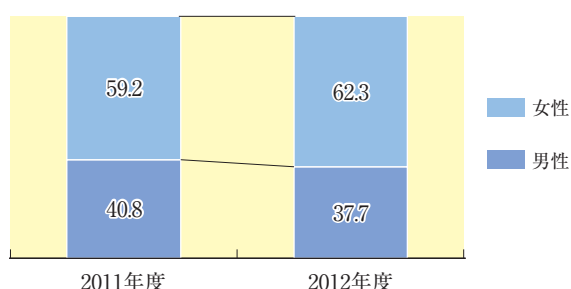
※参加者が集まらず中止になった分も含めた「時旅」の催行率は、2011年が約6割、2012年と今年2013年3～6月期が7割弱。

(1) 性別・年齢

参加者の性別をみると、女性の参加者が多い。

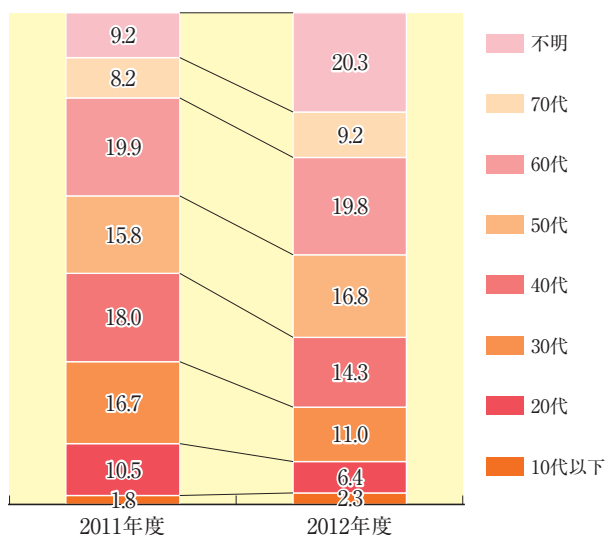
参加者の年代別では、50代以上が4割超を占めるなか、60代で2割弱を占める。

図表2 「時旅」参加者の性別割合



※佐世保観光コンベンション協会の資料をもとに当研究所にて作成

図表3 「時旅」参加者の年代別割合

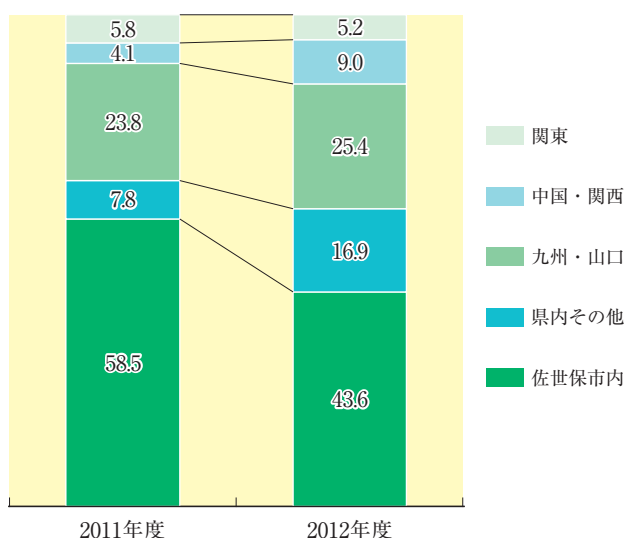


※佐世保観光コンベンション協会の資料をもとに当研究所にて作成

(2) 発地

参加者を発地別にみると、2012年度は佐世保市外からの参加者が増えていることから、「時旅」が佐世保市以外の地域にも浸透しつつあることがうかがえる。

図表4 「時旅」参加者の発地別割合



※佐世保観光コンベンション協会の資料をもとに当研究所にて作成

4. 「時旅」のリピーター

現在、「時旅」の広告・宣伝は佐世保観光コンベンション協会が中・北部九州から山口県までを中心に行なっている。

そのようななか、『海軍さんの港まちバスツアー』が地元民放制作の番組のなかで紹介され、BS放送で2012年3月に全国放送されて以降、関西や関東といった都市圏からの参加者が増えは

じめた。「時旅」全体としてもリピーターが増加してきており、2013年夏現在、リピーターは3割を超えている（佐世保観光コンベンション協会：談）とのことであった。

Ⅲ．今後に向けて

1．参加者の反応と要望

佐世保観光コンベンション協会には、「時旅」の参加者から「ガイドさんの話しがよかった」「時間の過ぎるのが速かった」などの声が寄せられており、市民ガイドと地域住民が工夫を凝らして作り上げたプログラムが観光客に好評なことがうかがえる。

一方、「時間が足りない」「(特定の) お土産を買いたい」などの声もあっている。もっとじっくり時間をかける、また一般の観光ツアーのようにコースのなかにお土産購入の機会を設けたり、オリジナルのお土産を開発したりする、などの各種対応策も考えられるが、一般的な観光ツアーとは異なるコンセプトを持つ「時旅」では、その特徴を壊さない範囲で対応すべきであろう。

2．「時旅」効果の広がり

「時旅」は、定員が年間5,000人前後の観光プログラムであり、佐世保市観光全体の増加に貢献するプログラムという位置づけではない。

「時旅」各コースのコンセプトは、これまで気がつかなかった地域資源を訪問・体験する既存の佐世保観光ツアーにはない新しい旅の提供である。

また、例えば「海軍さんの港まちバスツアー」における米軍基地には、日米交流のため月1回25名限定で入場を許可されているなど、コース毎の事情がある。

さらに、少しマニアックな観光コースも多く、これらのことから「時旅」は少人数向きの旅行プログラムとなっている。

佐世保観光コンベンション協会では、佐世保のある一地域を深く掘り下げ、その特性を生かした旅を提供している「時旅」を“新たな佐世保観光のはじまり”と位置づけており、そのコース作成が結果的に佐世保の新しい観光素材を見直し、抽出する作業ともなったことから“佐世保再発見の旅”と評している。ゆくゆくは、暮らしのなかにある地域の特性がいつでも体感できるというプログラムが準備されている状態をつくり出し、地域が日常的に来訪者を迎えることでその活性化につなげるという、いわゆる観光地域づくりの段階へ移行していきたい、との考えを持っている。

おわりに

「時旅」は、市民ガイドと地域住民が企画する新しい佐世保の旅の形であり、佐世保の“顔”を引き出すことに成功した。この観光プログラムの目的は、集客数ではなく観光客に佐世保の地域性を体感してもらうことにある。そのため、バラエティに富んだコースをある程度自由に設定することができ、一般観光ではなかなか体験できないことを可能としている。また、市民ガイドや地域の人たちが一から企画したオリジナルメニューであるという点において、年間万単位の集客を目指している長崎市のまち歩き観光「長崎さるく」とも根本的に異なっている。

佐世保を訪れる観光客の皆様には、まずはこの『SASEBO時旅』で興味深いコースを選択して佐世保の奥深さに触れていただいた上で、佐世保観光を楽しむことを強くお勧めしたい。

(杉本 士郎)